

第5回 人★インタビュー Season2

鹿行支部 神栖市 鈴木行政書士事務所

～鈴木 昌美先生インタビュー～

茨城県神栖市にある鈴木行政書士事務所を訪ね、創業51年目を迎える同事務所の鈴木昌美先生から、貴重なお話を聞くことができました。事務所は神栖市波崎総合支所の近くにあり、おしゃれで印象的なカウンターが入り口を飾っています。明るく温かい雰囲気の中で相談を受けることができる環境は、相談者にとっても安心感を与えることでしょう。先生は3月3日に鹿行支部の研修会で講演をされ、支部創設50周年を迎えた鹿行支部にとって、貴重なお話をしていただきました。今回のインタビューでは、事務所の歴史から行政書士としての心得まで、幅広いお話をお伺いしています。

(聴き手 通信員 阿部 孝太郎)



【通信員】 はじめに、創業51年目ということですが、これまでの業務経歴についてお聞かせいただけますか。

【鈴木先生】 昭和48年10月1日に都市計画法による線引きが始まり、それに伴い農地転用申請と建築許可申請が同時受付となりました。また、同時期に鹿嶋臨海工業地帯の発展により人口増加や建築ブームが訪れ、建設業許可申請が最盛期を迎えます。同じに、官公庁への入札指名願い申請も増加しました。これらの法改正の波に乗り、事務所を経営してこられたのだと思います。

【通信員】 行政書士として、大切なことはなんですか。

【鈴木先生】 「足しになるか、ならないか。」これが最も重要だと思います。足しにならない人は淘汰

されていきます。一方で、足しになる人は、何をやっても大丈夫なのです。市議員も同じですね(笑)。また、言葉の使い方や言い回しにも注意が必要です。人柄も大切ですが、まずは最初の言葉でその人の感じがわかります。後から「あの人は気持ちがいい」と感じることもありますが、初めから気持ちがいいと言っても、付き合ってみなければわかりません。ここで誤解や理解が生まれるのです。

【通信員】 誤解と理解？

【鈴木先生】 「大人しそう」と「大人しい」は全く異なる意味を持ちます。

【通信員】 見かけと本質ということでしょうか。

【鈴木先生】 美味しそうと言うのも、食べてみないと分からない。そのイメージが重なってくると、何をやっても大丈夫なのです。結婚と言うのは誤解だそうです(笑)。一緒になってから理解に変わる。行政書士もそう。様々な情報をみていると、行政書士として開業すればいい線が行けそうな気がする。これは全くの誤解で、実際にやってみるとこんなはずじゃなかったとなる。よく理解をしないと、成功はないでしょう。

【通信員】 身に染みますね。

【鈴木先生】 そして、「気」も大切です。「気」の研究というものがあり、日本が一番進んでいます。人

間は何でできているかといえば「気」でできているのです。「気」は心。「気」がないと何もうまくいきません。「気」が抜けている状態では、飲み物も美味しくない。行政書士の仕事は、「気」を再確認してもらうということです。「気」が抜けなければ、何をやってもどこに行っても大丈夫。死ぬ「気」でやるということはやる「気」につながります。

【通信員】「気」の研究というものがあるのですね。奥が深いです。

【鈴木先生】 危機管理とは「気」のコントロールなのです。さらに、お金の習性というものもあります。それを知らないと、お金は捕まらない。お金は神経質なので、不安なところには行きません。大きな金庫のような、安心できる場所にお金は集まるのです。そうしたことを知っておくことも大切です。その感覚がないと貯まらないのです。

【通信員】 大変勉強になります。本日は大変お忙しいなか、本当にありがとうございました。

鈴木昌美先生、お忙しい中にもご対応いただき、本当にありがとうございました。形容詞のお話や名前の音で「人」を見抜く判断技法など、人生の糧になるお話をいただき、とても楽しい時間を過ごすことができました。行政書士としてはもちろん、人生の大先輩として、心から尊敬いたします。「足しになる」と題を付けられたファイルもいただき、光栄です。私の人生のバイブルとして、大切にいたします。

もし興味を持たれた方がいらっしゃいましたら、鈴木昌美先生にお問い合わせください。きっと、行政書士としての視点から得られる知識や、人生を豊かにするアドバイスをいただけることでしょう。

鈴木昌美先生、本当にありがとうございました。



おしゃれな事務所です！



表彰状の数々が歴史を感じます